

姥堂小学校だより



平成28年度 第28号 平成28年12月22日(木) 発行責任者：遠藤幸栄



＜ 厳肅な雰囲気の中での鼓笛移杖式 H28.12.21 ＞

ご連絡ください。上の写真は、鼓笛移杖式の一コマです。これまでの反省を元に、今年度は2学期中の移杖を目指して練習に励んできた子どもたち。厳肅な雰囲気の中で、大事に守り続けている伝統がまた一つ、6年生から5年生へと確実に引き継がれています。

今日で2学期が終了します。
保護者の皆様、地域の皆様には、
たくさんのご協力をいただき、誠に
有難うございました。お陰様で充実
した教育活動ができたように思いま
す。ご存じのとおり、子どもたちは
元気いっぱいです。冬休み中も、教
職員は学校につめておりますので、
何かお気付きのことがございましたら、
遠慮なさらずにTEL27-3357 まで

中地先生を招いて



宮ノ目にお住まいの中地泰子先生を講師にお迎えして書道教室を2日間開催しました。基本を身に付けることを中心に、一文字一文字、また一人一人に心と思いを込めて実に丁寧に指導していただきました。私たちはその姿に、文字の美しさだけでなく、人としての生き方をも学んだように思います。中地先生、本当に有難うございました。



＜中地泰子先生を特別非常勤講師にお迎えした書道教室 3・4・5・6年生が一堂に会して H28.12.14・20 ＞



第2学期 終業式の言葉 ～ 喜怒哀楽 ～

8月25日から始まった2学期も今日で終了します。数えてみると、2学期は全部で120日間ありました。この120日を振り返ってみると、嬉しいことや楽しいことがたくさんあったように思います。皆さんは、何が一番の思い出になっていますか？
少し考えてみてください。

さて、校長先生の今日の話のテーマは「喜怒哀楽」です。この言葉は人の心の有り様、感情をあらわす言葉です。毎日の生活の中で誰でも嬉しいことや楽しいことがあります。しかし、がっかりしたり、頭にきて怒り出したりするときだってあるでしょう。この誰でも感じる、喜び、怒り、哀しみ、楽しみを表した言葉が「喜怒哀楽」です。

校長先生はこの2学期、嬉しいことや楽しいことがたくさんありました。例えば、学習発表会や芋煮会、水泳大会や陸上大会、マラソン大会もありましたね。思い出すと、実にたくさんあります。でも、「その中で一番嬉しかったことは？」と誰かに訊かれたら、きっと「みなさんが毎日元気に登校してくる姿を見ていたとき」と答えるでしょう。校長先生にとって、何より嬉しいことは、みなさんが明るく元気に、そして笑顔で登校してくる姿を見ること、そして、皆さんの元気な挨拶の声を耳にすることです。

次に、がっかりしたり、頭にきて怒りたくなったりすることなのですが「これはありません」と言いたいところです。しかし、私も人間。嬉しかったことや楽しかったことと同じくらいあったように思います。ただ、私はそういうことは、早く忘れて、次に会った時には、大きな声で元気に挨拶し、嫌な思いを断ち切るようにしています。

ここで校長先生からみなさんにお願ひがあります。よく聞いてくださいね。

実は、先週の土曜日、義理の母が亡くなりました。突然、心臓が止まる病気でした。あまりにも突然の出来事でした。人の命はかけがえのないものです。「かけがえのない」とは、一度なくしたら、もう二度と戻ってくるできないという意味です。

冬休みは、全部で18日間あります。この間に、クリスマスやお正月と楽しい行事がたくさんあります。そこでこの冬休みの中で、お祖父ちゃんやお祖母ちゃん、お母さんやお父さんに感謝の言葉をかけてください。そして、楽しい時間を一緒に過ごしてください。これが、校長先生のお願ひです。また、自分の命の不思議さ、命の大切さについて、よく考えてください。

3学期は、1月10日にスタートします。また、43名全員が笑顔でこの場所に集まってくださいね。

これで校長先生の話を終わります。



< 子どもたちが始めた朝のあいさつ運動から >

※ 校長休暇のため教頭が代わって話しました。